

## A- I -06 臨床工学技士による呼吸療法業務への取り組み

(財) 甲南病院 臨床工学室<sup>1)</sup> 同麻酔科<sup>2)</sup>

保月 栄一<sup>1)</sup> 土谷 武嗣<sup>1)</sup> 藤井 清孝<sup>1)</sup> 岡本綾子<sup>1)</sup> 三好 千鶴<sup>1)</sup> 荒川 隆宗<sup>1)</sup>  
井上 紀子<sup>1)</sup> 武本 博子<sup>1)</sup> 津田 三郎<sup>2)</sup>

### 【目 的】

当院のこれまでの人工呼吸器業務は、人工呼吸器の貸し出し・点検・回路交換などの保守管理を中心とするものであった。しかし、さらなる臨床への関与を目指し、呼吸療法分野への業務拡大に取り組んだので、その内容について報告する。

### 【背景】

当院臨床工学室は、麻酔科部長を室長とし、8名の臨床工学技士が所属し、うち3名が呼吸療法認定士を取得している。呼吸療法認定士取得者の増加とともに、人工呼吸器のみならず呼吸療法分野への意識が高まったことと、呼吸療法機器に関する故障・不具合への対応も増加してきた。

### 【実 績】

各病棟での管理が不十分であったり、故障・不具合の対応が多かったものを中心に行った。主なものとして (1) 看護師から要望があり、病棟詰所で監視ができるパルスオキシメーター用テレメーターシステムの導入 (2) ネブライザーは10年以上使用されているものや使い勝手が悪いものは更新し、また、霧化部分の部品の紛失や組み立て間違いを防止するための対策も行った (3) すべての蘇生バックに酸素接続用のチューブとリザーバーバックを常備し、貸し出し用の蘇生バックも用意し緊急時にも対応できるようにした (4) N P P

V 導入時のマスクフィッティングや患者指導、看護師への勉強会を行った (5) 病棟看護師より要望があり、閉鎖式吸引カテーテルやカフ圧計導入のためのメーカー勉強会や使い方の指導を行った (6) 在宅人工呼吸療法へ移行する患者家族へ、人工呼吸器の使い方の説明や回路交換の指導を行った (7) 医師、看護師、理学療法士、ケースワーカーなどが参加し、今後の治療・リハビリ・退院に向けての方針を話し合う呼吸器カンファレンスへ参加し、ウィーニングに向けて人工呼吸器の設定変更や在宅用人工呼吸器の機種選定などの助言を行っている。

### 【結 語】

人工呼吸器管理業務から呼吸療法業務への業務拡大には、呼吸療法認定士取得が大きなきっかけとなり、呼吸療法認定士としての知識が大いに役立った。これまで管理していなかった機器の定期点検の実施や故障・不具合への対応により、機器の適正な使用を促すことができる。そして、さまざまな呼吸療法への相談・要望が寄せられるようになり、呼吸療法の質向上に貢献できるようになった。

### 【まとめ】

呼吸療法分野にも、関係職種が参加したチーム医療は不可欠であり、各職種が協力し、専門的能力が最大限発揮できる態勢の構築が必要である。